CCT2021 参加報告

華岡青洲記念病院　山口隆義

皆様こんにちは。華岡青洲記念病院の山口です。北海道もすっかり冬モードですね。コロナは落ち着いているようですが、忘年会は・・・

すっかり web の学会活動も慣れてきた感じですが、JSRT の秋季学術大会は hybrid 開催となり、やはりオンサイトでの情報交換は良いなと感じている所です。今回、私が報告させて頂きます CCT という会ですが、昨年は早々に中止が宣言され、今年こそは！と少し期待をしていたのですが、やはり大きい学会になればなるほど、早めの決断が必要という事で、web の開催が変更されることはありませんでした（残念）。

CCT とは complex cardiovascular therapeutics の略で、難易度の高い心血管治療を、ライブデモンストレーションを中心に、その技術や知識を共有しようとする国際的な学術集会で、毎年、神戸で開催されています。私は数年前から、この会の放射線部門のコースディレクターを務めさせて頂いております。コメディカルの参加も多いので、放射線技師の皆様へタイムリーでありながら未来を感じられる情報提供ができるようなプログラムをいつも考えています。

今年は、web 開催となりましたので、10 月 28 日（木）～30 日（土）の会期の中で、コメディカルに関しては、平日は 17:00～21:00、土曜日はフルでプログラムを組む事にしました。

初日は、今話題の水晶体被曝対策についてのセッションで、水晶体被曝の低減に有効な手段や管理方法などが紹介されました。皆様のご施設では、どのような管理をされてますでしょうか？私の施設では、PCI を多く行う医師に関しては、防護メガネの内側に直接装着する線量計を導入して管理しています。実は、CT 室で介助するスタッフの水晶体被曝も今後問題になると思います。色々と情報共有

が必要な領域ですね。

３日目には、「ハイボリュームセンターにおける冠動脈 CT」と題して、３施設からご講演頂きました。まずは、日本で一番冠動脈 CT 検査を行っている札幌心臓血管クリニック（SCVC）の佐々木さんです。２台の CT に解析等も含めて 10 名以上の放射線技師が関わっている状況を紹介して頂き、圧倒されました。我々の施設からは近藤技師長が登壇し、キヤノンの 320 列 CT２台を駆使したこだわりの冠動脈 CT についてプレゼンしました。SCVC の件数には到底及びませんが、最近では月に 400 件以上の冠動脈 CT を行うようになってきており、じわじわと忙しくなっております。最後は、こちらも有名な名古屋ハートセンターからご発表頂き、CT１台に４名の技師が配置されている事に加えて一次読影にも積極的に関与していることなどが報告されました。マンパワー大事ですよね。将来の華岡もそのような環境にできればと思います。

次に行われたセッションは「心筋画像解析ステップアップ～CT による ECV 解析、MRI による T1/T2 mapping～」で、CT は私が担当しました。冠動脈治療の領域でも、核医学以外のモダリティによる心筋評価が注目されています。キヤノンでも、心電図同期による spectral scan が可能になり、その遅延造影画像から解析される ECV 値は、定量値として予後との関係が報告されており、今後注目される指標です。これが CT で解析できる事を、まずは知ってもらい臨床に活かして頂きたいとの思いで企画しました。対する MRI では、非造影から得られる指標として T1/T2 mapping が注目されています。こちらに関しては、東京警察病院の吉田さんから詳しい解説を頂きました。

その他、心臓核医学のセッションや各社アンギオ装置の最新事情をご紹介頂くセッションもあり、今年も楽しんで情報共有ができたものと思っております。来年こそは神戸開催！！そしてライブ感溢れる企画で開催したいと思っています。

CCT2018 の際に訪れた南京町